

VOL.154

農協からのお便り

1
2021

グリーン
Green
地域と農業をむすぶJA広報誌

新春

おだやかで

幸せな一年でありますように



年頭にあたり

上川中央農業協同組合
代表理事組合長

野



昇

二〇二一年の幕開けを心よりお慶び申し上げます。合わせて組合員並びに関係機関皆様の本年一年の御健康ご多幸を御祈念申し上げるとともに、本年も農協事業に対して御力添え戴きます様に御願い申し上げます。

本年の干支である「牛」は古くから食牛や乳牛、耕牛と呼び親しまれ、酪農や農業で人々を助けしてくれる存在として重要な生き物でした。大変な農業を地道に最後まで手伝ってくださる様子から、丑年は「我慢（耐える）」や「発展の前触れ（芽が出る）」を表す年になると言われています。

昨年は比較的穏やかな気候に恵まれ自然災害等にも遭わず、米を筆頭に年度初めに立てた計画を上回る、まさに豊穡の秋を迎えることが出来ました。

規模で拡散され、全世界の都市が新型コロナウイルス感染危険地帯となりました。

百年前のスペイン風邪が同様の症状だったことが知られています。当時のおびただしい数の死亡記事も伝えられています。一日も早く新しく開発されたワクチン接種で安穩の日々が還ってくることを念ずるばかりです。

そのような社会状況の中でも、農業の世界は人々の食料を守るといふ使命を果たせた一年だったと言えるでしょう。娯楽や野外での活動また飲食の自由にも時間制限の要請が掛かった反動で、巣ごもり需要を生み出しました。ただ学校閉鎖が実施され、給食時に提供される牛乳などの消費減退が危惧されました。

脱脂粉乳・バターなどの加工品への転換で牛乳破棄などの最悪の場面は回避されました。

しかし畜産の食肉消費は観光地

や外食産業の冷え込みで大きな打撃を受けることとなりました。一

国の問題を遥かに超えた全世界的な苦境を経験する年となりました。都市空港から世界を目指す飛行機も大幅減便を余儀なくされインバウンド効果は全く望めない状況となっております。

全てが機能して初めて日本経済が機能していると言うことを改めて痛感させられた一年でもありました。

新年の日の出の輝きが全てを解決してくれることはありません。どうぞ其々が危うい場面は避けて健康な体の維持に心掛け、難局を乗り越えて御家族安穩な一年をお過ごし下さい。



謹賀新年

代表理事組合長	野	口	昇
代表理事常務	木	村	悦
理事	大	村	正
理事	岩	城	一
理事	山	本	憲
理事	青	木	光
理事	武	田	明
理事	伊	藤	章
理事	昔	農	昌
理事	松	岡	康
理事	松	岡	弘
信用担当理事	高	橋	勝
兼金融部長	高	橋	彦
代表 監事	関	行	男
監事	田	中	敏
員外 監事	川	崎	進





令和3年の年頭にあたり

北海道農業協同組合中央会
代表理事会長
小野寺 俊 幸

新年あけましておめでとうございます。

組合員並びに役職員の皆様には、コロナ禍にあってもその苦境にも負けず、日々営農に更に邁進されておられることを存じます。

また、地域農業の振興や地域社会の発展に向け、日頃より多大なご尽力をされていることに対しても、改めて敬意と感謝を申し上げます。

昨年の北海道農業は、米の作況指数が106の「良」、畑作物については収穫時期に一部地域に降雨による影響が見られたものの平年並以上の結果となり、生乳も前年の実績を超える生産となり、地域・作目によって違いはありますが概ね良い出来秋を迎えることが出来たと感じております。

しかしながら、昨年は、新型コロナウイルスとの戦いが長期化し、今までの日常とは大きく変化した1年でありました。農業分野にお

いても例外ではなく各種イベントの自粛、外食・中食の需要減少等の影響により、各作物の更なる需給緩和が懸念されているところであります。今後は作物ごとの実態を踏まえた、国産・道産農畜産物の需要喚起・消費拡大を図るとともに、外国人技能実習生が入国できないことにより、農作業の人材確保にも大きな影響が出ておりますので、北海道、全国連とも連携し、JAグループ北海道としてしっかりとその対応を図ってまいります。

JAグループ北海道では、昨年より道民の皆様に対し北海道農業から行動を起こすことで、農業と人、農村と都市、生産者と消費者の関係のあり方を見つめなおしていただくことを目的として「AGRI ACTION! HOKKAIDO (アグリアクション北海道)」と題した情報発信を北海道の支援もいただき、スタートいたしました。

た。

「AGRI ACTION! HOKKAIDO」は次の3つのテーマを伝えることを目的としております。

- ① 食料自給率に対する理解促進と行動変容の喚起
- ② 農業には多様な働き方があるということの周知とより多くの方が農業に携わっていただき、将来的に農業を仕事の選択肢として考えてもらうこと（本業以外に副業として農業に親しむ人々を「パラレルノーカー」と命名）
- ③ 日頃から道産農畜産物を食している道民の皆様へ感謝を伝えること

本年は第29回JA北海道大会の実践最終年であることから、この取組みと協同の力をテコとして「農業所得の増大」「多様な担い手の確保・育成」「食と農とでつながるサ

ポーター550万人づくり」の目標達成に向けて、実践活動を強化してまいります。

結びになりますが、本年は辛丑年です。牛は古くから酪農や農業で人間を助けてくれた大切な動物でした。大変な農作業を最後まで手伝ってくれる働きぶりから、丑年は「我慢（耐える）」、「これから発展する前触れ」というような年になると伝えられております。

この謂われにあやかり、新型コロナウイルスの1日も早い克服と皆様のご健勝、本年が豊穡の年となりますようご祈念申し上げます。年頭のご挨拶いたします。





新年の挨拶

JA上川中央青年部

部長 佐藤直哉

新年あけましておめでとうござ
います。皆様方におかれましては
お健やかに新しい年をお迎えのこ
とをお慶び申し上げます。

昨年は新型コロナウイルスに始
まり、いまだに終息の目途も立た
ない不安な年となりました。テレ
ビをつけても新聞でも「コロナ、
コロナ」と連日感染者数の報道を
見ては、いつになれば落ち着くの
が不安な日々を過ごしています。

そんな中でも休みなく我々の為
に働く、医療従事者の方々には本
当に頭が下がる思いです。

昨年の青年部活動を振り返って
みますと、コロナの影響で限られ
た中ではありますが、5月に豊稷
祈願祭を役員対応で開催、10月に
フレミズと共催で収穫感謝祭を開
催し、ビンゴ大会をするなど、フ
レミズの方や子供たちと交流す
ることができ、コロナという状況
下でも絆を深める大切な時間とな
り、今後も続けていきたいと思ひ

ました。また収益事業としまして、
例年7月に愛別夏祭り、9月に愛
別きのこの里フェスティバルに青
年部として出店していましたが、
昨年は中止となりました。

12月には消費拡大とPR、地産
地消を目的に上川町・愛別町の教
育委員会、各幼児施設のご理解、
ご協力いただき、青年部から幼児
へ上川町産そばとJA上川中央き
のこ飯の素を寄付させていただきました。

コロナで外出もなかなかできず、
お家の中でのびのびと遊べずにい
る幼児の皆さんに少しでも年末年
始に家族団らんで地元食材を食べ
ていただき、楽しく過ごしてもら
えたらと企画しました。

今後も我々ができることを地道
に活動していきたいと思ひます。

上青協事業にもコロナの影響を
受け、上青協3大事業の「かみか
わ農業祭」は中止、「上青協大会」

は延期、「道外視察」は道内または
上川管内で検討中であります。昨
年は充電期間だととらえ今年に充
実した活動をできるよう計画して
行きます。

青年部に限らず、協議会でも部
員・盟友減少が課題となっていま
すが、様々な活動を通じて、部員
同士が切磋琢磨し、みんなが助け
合いながら課題解決していける場
になればいいと思ひます。そして、
地域を盛り上げて行けたらと思ひ
ます。

今後も青年部活動にご理解ご協
力をお願い申し上げますと共に、皆
様にとって実り多き年となること
をご祈念申し上げます。ご挨拶と
させていただきます。



謹賀新年

青年部

- 部長 佐藤 直哉 (上川)
- 副部長 成田 真市 (愛別)
- 会計 辰巳 裕亮 (上川)
- 理事 大野 真治 (愛別)
- 理事 出戸 将太 (愛別)
- 理事 遠藤 雅大 (上川)
- 理事 佐々木孝志 (愛別)
- 監事 奥 典大 (愛別)
- 監事 阪本 航大 (上川)

女性部愛別支部

- 部長 藤村 仁美
- 副部長 前佛 明美
- 理事 藤原 幸子
- 理事 三浦 恵子
- 監事 矢部香津子

女性部上川支部

- 部長 辰巳 明美
- 副部長 遠藤 初美
- 副部長 石山小百合
- 監事 菊地由紀子
- 監事 阪本 由美

新年のご挨拶



JA上川中央女性部愛別支部

部長 藤村 仁美

あけましておめでとうございます。女性部の皆様におかれましては、ご家族そろって新年を迎えられたことを、心よりお慶び申し上げます。

そして、新型コロナウイルス感染症によりおしくなりになった方々に謹んで哀悼の意を表すると共に、感染された方々やその御家族の方々に御見舞い申し上げます。

昨年は、新型コロナウイルスで色々な行事が中止になり、何もできないまま1年が過ぎてしまいました。

今年には農協の役員改選の年ですが、推薦ルールが大幅に改正され、女性に参加し易い内容となりました。

JA女性部として、真剣に検討しなければなりません。「女性参画」がいよいよ現実になってきました。

コロナ時代においても『できることから』JA女性部活動に取り組み、一歩ずつ着実に前進し、JA女性部を活性化させましょ。

本年も、部員並びに各関係機関の皆様には、女性部活動へ更なるご理解とご協力をお願い申し上げます。皆様にとつて美り多き1年となります様に、ご祈念申し上げます。新年のご挨拶に代えさせていただきます。

新年の挨拶



JA上川中央女性部上川支部

部長 辰巳 明美

あけましておめでとうございます。

部員の皆様方におかれましては、ご家族の皆様方と健やかに新しい年をお迎えの事とお喜び申し上げます。また旧年中は女性部活動に対して格別のご理解とご支援を賜り厚くお礼申し上げます。

2020年初頭は「令和新時代にオリオンピクニックの開催、これから新しい日本が動き出すのだな」という予感をもって迎えました。新型コロナウイルスによって世界がどのように変わるとは思いもしていません。

マスク・手洗い・消毒はもちろんのこと、不要不急な外出の自粛、「三密」を避けるといった新たな行動様式によって、いかに私たちの活動が対面・集会に依存していたかに気がつかされました。多くの女性部活動が制限され、予定していた行事や大会も延期・中止をせまられました。

わたしたち上川支部女性部においても、3月の総会は書面決議となり、上川管内中央Bブロック研修会や町民文化祭への出店も中止となりました。その一方で、どつすれば「三密」を避けながら感染予防に配慮した事業ができるか、知

恵を出し合いながら活動して参りました。6月は屋外作業であるフラワーハーモニ―事業の実施、11月には、感染状況が小康状態となりGOTOトラベル事業など観光地支援の機運もあつたため、視察研修として白老の「民族共生家徴空間ウポボイ」と函館方面へ伺いました。

その後再び道内での感染が拡大し、札幌はGOTOトラベルから除外、旭川では厚生病院をはじめとする複数のクラスターが発生する状況となりました。はたして11月に視察へ行って良かったと思うか、自分たちの予想以上に感染リスクの高い状況であったと思うか、結果論のよう

で判断が難しいです。昨年、「コロナ第2波が拡大しつつある時期に、iPS細胞の権威である山中伸弥教授が自身の研究室からリモート出演されるのをよくテレビで拝見しました。

教授の部屋には「人間万事塞翁が馬」という軸がかけられていて、「人生における不幸は予測しがたく、今は良いと思う出来事でもそれが原因となつて悪いことに繋がったりその逆もある」ということだそうです。

新型コロナウイルスによって人命が奪われ、生活を制限され、経済活動も大きくマイナスになるなど、多くの悪影響を及ぼしています。その一方でリモートワークや会合の時間短縮など、場所の制限や移動時間の圧縮といった仕事の効率化も生まれています。コロナ対策は結果としてインフルエンザ等の従来の感染症予防にも貢献しており、感染・死者数は例年以上に抑えられています。

外出・外食自粛による飲食業界の不振は農業界にも多大な影響を与えておりますが、社会情勢が不安定なときにはやはり「食の大切さ」が見直され、外食がで

きないぶん、家庭での食事を大切にすることを消費者の動向もあります。

今後コロナウイルス用のワクチンや治療薬が開発・普及すればコロナ以前の生活に戻れると思いますが、「コロナ禍によって、人と会うこと、その場所を直接訪れること、そして食の大切さが見直されています。農業の視点から言えば、生産者としての人柄、農村のロケーション、そして美味しい農産物を提供するという、まさに「農家の魅力」こそが新たな時代に求められているのではないのでしょうか。

女性部活動を通じた農村女性の魅力発信、フラワーハーモニ―事業などの景観整備、きのごおこわづくりといった地場農産物の調理提供など、これからも私たちの活動が人々の笑顔につながることを信じてやみません。またまた感染状況や社会情勢を伺いながらの活動にはなりますが、本年も各関係機関の皆様へのご理解・ご協力をお願いすることも、2021年が飛躍の2年となりますようにご祈念申し上げます。新年のご挨拶に代えさせていただきます。



するーライフ 2章

『空師』～廃れ行く里のために…

12月に入ってもメディアはここ最近の各地のコロナ感染者数やGoToトラベルの話題に集中していた。また経済環境の悪化の解決と医療崩壊防止策を無理やり同じ土俵で論じ合っていた。矛盾し合う論点は共存を跳ねのけてしまう。自由を挽がれたと思う人々は、たまの格安の旅行をと思い立つ、至極自然な心理である。繁華街や観光地が首を長くしてこの光景を待っていたのも理解できる。ここにコロナ感染拡大の懸念がなければ、三方良しであるが。この良薬なしの駆け引きはまだまだ続き、果たしてワクチン接種の効果波及が世の中を鎮静化させてくれるのだろうか。



五年の新しい一年の始まりである。外出を控えて鑑賞したある日のドキュメンタリー番組の話題を紹介したい。番組で紹介された職業の存在に驚いた。「空師」と言う。聳え立つ木にロープでよじ登り枝何本も切り下し、地に降りてはチェーンソーでその巨木を伐採する。奈良県吉野地方に生きる43歳の青年である。背負う仕事道具はチェーンソーやロープなどで10キロを上回る。器用にロープを操り、目標の巨木を上へ上へと昇って行く。

場面によっては隣の幹に体を移す。常に作業は二三手先を読んで続ける。正に猿かテンなどの動物の動きである。自分の将来を考えた若い時期、消極的な性格や社交性に苦手な面を自覚していた。黙々と山仕事に励む父に就いて行くことを決めた。汗を掻いた格好を蔑まれ、何事にも誉め言葉一つない厳しい父だった。山の斜面にきりりと立ち、作戦を練る父の姿。そのような厳しい師匠である棟梁を目指した。長い歳月の流れの中で意志を貫いた我が子の腕を認めてくれた。

現在は山仕事の集団のトップを任せられていた。廃れ行く吉野杉の里を活性化させたい一心が「空師」を追い求めさせた。昔100万の値がついた一本杉は、10万の値踏みしかしない時代になった。外材が市場を変えた。この秋挑んだのは空師の技を用いなければ切ることが出来ない、山奥の樹齢200年を超える巨大な「とちの木」の伐採依頼だった。共に伐採に立ち向かってくれたのは背中を追い続けた父だった。「空師」の誇りを懸けた挑戦の場に父がいた。ひとつの木を植えてから商品として切り出すまでにかかる時間は100年以上。自分の代だけでなく自分の前の世代、そして後の世代にも思いを馳せながら仕事をする。43歳の彼が語る。「自分達は吉野の歴史のほんの一部やから」と自分の人生が何かの歴史と紐付いていると語る姿には、心惹かれるものがあった。急斜面に倒木を利用した細い道を作り、四日程度のキャンプ生活をしながら大仕事に立ち向かって行く。寡黙な父が息子の仕事を、目を細めて見詰め、満足げに大きな息をついた。

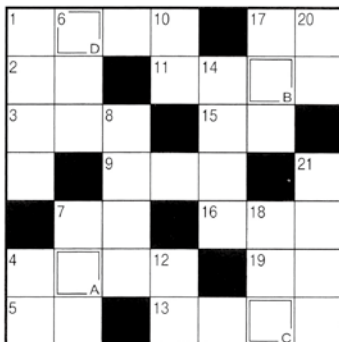
直径3メートルを誇るとちの巨木が細心の注意のもと切り倒されて行った。10本を数える巨大な「とちの木」は山から下りて豪華な一枚のテーブル板などへと姿を変える。

豪華テーブル板を客は讚えるが、その裏側の「空師」のドラマは知らない。

世の中のコロナ感染が嘘のように感じる山奥の物語である。

令和2年12月6日NHK「目撃にっぽん」より

パズル? 頭の体操



ヨコのカギ

- 富士ニタカミナスビは、何に見ると縁起の良いもの?
- キャンパスの大きさを表すときに使う言葉
- 港を表す地図記号はこの形
- 強烈な悪臭がする液をお尻から噴射して身を守る動物
- 1/100はセンチ、1/1000は
- なぜか猫が入りたがる物
- 大豆や緑豆の種子を暗い所で発芽させた物
- 物事をするのにちょうど良い頃合い
- おせち料理に入れる煮豆
- 鶴は千年、——は万年
- ご飯のこと。カレー——
- ぬいぐるみに話めす
- ピーヒョロロと鳴く大きな鳥

タテのカギ

- 羽根突きに使う道具
- すずりですります
- 止まらず次に進むこと
- 重さを知りたいときに使います
- テレビやエアコンに向けてボタンを押します
- ご飯のこと。焼き——
- いんいちがいち、いんにがに……
- 付きのタイで成人を採った
- 車が動きださないようにタイヤにかませます
- 同種の事例は枚挙に——がない
- 凍った場合は氷溜(ぼく)と呼ばれます
- ひもの——が固くてほどけないよ

先月号の答え

パズル? 頭の体操



解答 A B C D E
シ ユ ン ギ ク

1日 第3四半期 監事監査(〜4日)
 10日 JA上川中央第3回役員推薦会議
 24日 愛別青色申告会年末調整説明会
 25日 第11回定例理事会
 30日 仕事納め

営業時間変更のお知らせ
 事業年度末の棚卸業務により、営業時間を変更させていただきます。皆様にご不便をおかけしますが、ご理解よろしくお願い致します。

1月29日(金)休業
 資材店舗(本所・支所)・農機センター
 1月30日(土) 17:00まで短縮営業
 ホクレン給油所(愛別)
 1月31日(日) 17:00まで短縮営業
 ホクレン給油所(上川)

よろしくお願い致します

申田陽介
 営農部営農販売課営農販売係(準)
 (12月1日付)

組合員のうごき

(令和2年11月26日現在)
 正組合員戸数 320戸
 総組合員数 2,294名
 正組合員数 501名
 うち団体数 32団体
 准組合員数 1,793名
 うち団体数 60団体

第10回定例理事会

令和2年11月26日開催

- 1 報告事項
 組合員の脱退について
 5名の脱退について報告した。
- 2 合同委員会の内容報告について
 合同委員会の内容について報告した。
- 3 農家経済対策委員会の内容報告について
 第3回農家経済対策委員会の内容について報告した。
- 4 要領の部改正について
 2件の要領改正について報告した。
- 議事
- 1 出資持分の相続について
 1名の相続について承認された。
- 2 組合員の加入報告並びに組合員資格について
 1名の相続加入について承認された。
- 3 規程類の部改正について
 2件の一部改正について内容を説明し、承認された。
- 4 臨時給与の支給基準について
 12月支給予定の臨時給与について、支給基準などが承認された。
- 5 第3四半期見直し計画について
 10月末実績に基づく見直し計画について承認された。
- 6 ハウスリース資産の取得貸付について
 2件の申込み内容について承認された。
- 7 令和3年営農計画書審査方針並びに基準について
 営農計画書作成に伴う審査方針並びに基準単価について承認された。
- 8 資金の融資について
 3件の融資案件について審議の結果、承認された。
- 9 理事に対する資金の融資について
 2名の理事に対する融資案件について、該当理事退席のもと、審議され承認された。
- 10 令和2年産飼料用米に係る仮渡金について
 対象数量及び仮渡単価に基づく仮渡金額が承認された。

地域の美味しい食材が心和む一時と・・・

愛別・上川農民連盟が米の消費拡大運動を実施

全上川農民連盟

11月20日に愛別町農民連盟の岡田委員長が愛別町へ『新米』を寄贈し「幼児センター」で活用されることとなりました。又12月4日には、上川町農民連盟の藤本委員長が上川町特別養護老人ホーム「大雪荘」へ寄贈しました。

管内で組織する全上川農民連盟(19組織)の活動の一環で、消費拡大とコロナ禍で疲弊する地域への貢献として、支援を必要としている施設や団体等へ『新米ななつぼし』が寄贈されました。

農民連盟では新型コロナウイルスの一日も早い終息と、併せて地域の美味しい食材が心和む一時となる事を願っています。



愛別町農民連盟



愛別町幼児センター



上川町農民連盟



今月の
オススメ

栗けんちんの
漬けそば

材料(4人分)

- ささぎゴボウ …………… 1本分
- ニンジン(細切り) …………… 1/2本
- 鶏もも肉(細切り) …………… 1枚
- むき栗 …………… 20粒ほど
- マイタケ …………… 1パック
- サラダ油 …………… 大さじ2
- (漬け汁)
- かつおだし …………… 5カップ
- しょうゆ …………… 1/2カップ
- みりん …………… 1/2カップ
- 料理酒 …………… 1/4カップ
- いりごま …………… 適宜
- ミツバ …………… 適宜
- 干しそば …………… 400g

作り方

- (1) 鍋にサラダ油を熱し、ゴボウ、ニンジン、鶏もも肉、栗を炒める。
- (2) (1)に漬け汁用の材料とほぐしたマイタケを入れ沸騰させ、中火であくを取りながら20分ほど煮る。
- (3) 器にそれぞれ(2)を盛り付け、いりごまとミツバをのせ、ゆでて冷水で締めたそばを添えて出来上がり。

未来を拓く協同組合 教えて! 日本農業

未来を拓く協同組合

教えて! 日本農業

監修=JCA(日本協同組合連携機構)

スマート農業

ドローン(小型無人飛行機)やロボット、人工知能(AI)などの最新技術を駆使した「スマート農業」が注目を集めています。すでに、自動走行トラクターを用い、限られた作期の中で一人当たりの作業可能面積を広げ、働き方を改革する農業者が現れています。

スマート農業は、担い手の減少や高齢化の進行による労働力不足、熟練農業者のノウハウの継承といった課題を解消し、農業のやり方を大きく変えるのではないかと期待されています。全国のJAもスマート農業を推進。農業者の導入を支援したり、自ら活用したりするJAの数は2019年度で168JAに上ります。

無人トラクターで畑を起こし、ドローンで農薬を散布、スマートフォンで農作物の生育を確認しながら、自宅で水田の給水栓を操作する――。夢のような農業の実現に向けて、JAも動き始めています。

スマート農業の効果

- ①作業の自動化
ロボットトラクター、スマホで操作する水田の水管理システムなどの活用により、作業を自動化し人手を省くことが可能に
- ②情報共有の簡易化
位置情報と連動した経営管理アプリの活用により、作業の記録をデジタル化・自動化し、熟練者でなくても生産活動の主体になることが可能に
- ③データの活用
ドローン・衛星によるセンシングデータや気象データのAI解析により、農作物の生育や病害虫を予測し、高度な農業経営が可能に

農水省資料より作成

<事例> ドローンによる省力化で規模拡大を支援

JA香川県は農業散布用ドローンの導入に対する助成事業を創設し、農業者の作業省力化や規模拡大を後押ししています。作業面積は導入前の139㌔から105㌔増の244㌔(75%増)に達しました。



JA全中「JAグループの活動報告書2019」より作成

耕そう、大地と地域の未来。